



遊びとしての「剣づくりの」意味

今、時間があれば新聞や広告を端からクルクル巻いて棒状にする遊びを夢中になって楽しんでいるクラスがあります。クルクル巻いてほどけないように、テープを貼るだけですが、子ども達は、この遊びの何に魅力を感じているのでしょうか？保護者の皆さんも、「そういえば、子どもの頃やったなあ」と懐かしく思い出されませんか？

ここで、もう一つ、思い出してください。お子さんが歩き始めの頃、「親の手を振り払ってまで、何が楽しくてそんなに歩くのか」って思ったことがありますか？子どもは、「今、発達しているところ（機能）」を使いたいのだそうです。とすると…、「歩く」ということは、「なるほど」と思いますが、では、一つ目にあげた「剣づくり」は、どこが発達しているのでしょうか？



やりたい子がいつでも、何回でもチャレンジできるように、新聞紙や広告がたくさん準備してあります。

右手人差し指先の腹、左手は、紙が動かないように抑えています。

両手の指先を使って、なるべく細く巻こうとしています。

力加減をしながら、両方の手のひらを使って、巻き上げていきます。

これは、手のひら・指先の感覚が自分のものとなり、自分の思うように手も指も使えるようになっていきます。次に、この手先の発達は、どこにつながるのでしょうか？



年中組 制作 ひな人形



年長組 制作 ひな人形



年長組 絵画 豆まき

この女の子をつくったのは、年中さんです。こんなに細く紙を切ることができるようになっています。つまり、両手や目と手の協応性が育っているからできることです。そして、その横2つのひな人形も、年齢が上がるにつて、ハサミの使い方がうまくなっていることが見て取れます。また、一番右側の節分豆まきの鬼の絵は、まかれる豆から逃げている鬼を表現していますが、目の表現や手足の動きなどから、今にも動き出しそうです。絵の表現力は、言葉の表現力にもつながっています。こうして、ただ遊んでいるだけのように見えますが、子ども達の発達を見通した遊びをこども園では工夫しています。ご家庭に持ち帰りましたら、たくさん褒めていただき、園とご家庭とで子どもの益々の成長を喜んでいきたいです。